太子町
ぶらりまち歩き

太子町観光協会

〒671-1523 兵庫県揖保郡太子町東南51-1（太子町商工会内）
TEL.079-277-2566　FAX.079-277-0068
E-Mail:tourist@taishi.or.jp

＊本誌掲載の写真・マップ・キャラクターの無断転載・複製を禁じます。

聖徳太子ゆかりの名刹 斑鳩寺

■斑鳩寺

推古天皇の時代、聖徳太子が勝鬘経、法華経などを天皇に講じられ、これに御感あった天皇より播磨国の水田を賜り、太子はこれを仏法興隆のため法隆寺に寄進されました。

後の平安時代に、この地は「法隆寺領播磨国鵤荘」となり、荘園経営の中核的存在として、政所とともに斑鳩寺が建立され、以後この地方の太子信仰の中心となりました。

斑鳩寺は法隆寺の別院として、往古には七堂伽藍、数十の坊庵が甍を並べ壮麗を極めましたが、出雲の尼子氏の侵攻で播磨が混乱していた天文十年（１５４１）四月七日、不慮の火災により、諸堂が灰燼に帰しました。

その後、楽々山円勝寺の円光院昌仙らにより、龍野城主赤松下野守政秀らの寄進を得て、講堂、三重塔、太子御堂（聖徳殿）、仁王門などの伽藍が復興されました。

江戸時代以降は天台宗となりましたが、今も「お太子さん」として、近郷近在から広く信仰を集めています。

■三重塔

［国指定重要文化財］永禄八年（１５６５）

永禄八年（１５６５）に再建され、露盤には龍野城主 赤松下野守政秀が天下泰平を祈願して発願したという銘文が刻まれています。斑鳩寺伽藍のうち、天文十年（１５４１）の焼失後、再建された建物がそのまま残る唯一の建造物です。

■聖徳殿前殿

［県指定文化財］寛文五年（１６６５）

本尊に聖徳太子十六歳孝養像を安置するお堂です。

この像は、父である用明天皇の病気平癒を七日七夜の間、日夜柄香炉を捧げ、その枕辺に立ち、常行三昧の行法を行った太子の姿で、「御孝養の御姿」といわれ、また、太子の髪が植えられていることより「植髪の太子」と称されています。

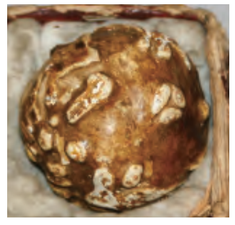
本殿は天文十年に全焼。天文二十年（１５５１）に再建、寛文五年（１６６５）に修造。大正五年（１９１６）には中殿及び法隆寺夢殿を模した奥殿（八角二重円堂）が増築されました。

■聖徳太子勝鬘経講讃図
［国指定重要文化財］

法隆寺伽藍縁起并流記資材帳に記されている、戊午年（推古天皇六年・598）四月十五日の聖徳太子講経のありさまを描いたものです。

国指定重要文化財で鎌倉前期の作とみられ、太子の息子・山背大兄王、師とあがめる高句麗僧・慧慈、百済博士・学呵、蘇我馬子、小野妹子の五人の縁者が太子を取り囲む姿が描かれています。

三日目の講義終了とともに、蓮の花弁が辺り一面に舞い降りたとの奇跡も描かれています。



■聖徳太子の地球儀

表面に南北アメリカ大陸や、ユーラシア大陸、南極大陸、ムー大陸などがレリーフのように描かれています。江戸時代末の安政三年（1856）に作成された寺宝目録『常什物帳』の中に「地中石」と記載されているのがこの地球儀であると考えられています。

■木造釈迦如来坐像［国指定重要文化財］
■木造薬師如来坐像［国指定重要文化財］
■木造如意輪観音坐像［国指定重要文化財］

講堂には、本尊として、中央に木造釈迦如来坐像（像高190㎝）、向かって右に木造薬師如来坐像（像高206㎝）、左に木造如意輪観音坐像（像高245㎝）の三体が安置されています。

丈六仏で迫力があり、堂々たる落ち着きが感じられます。飛鳥時代の様式を模した模古作で、製作年代は鎌倉時代末から室町時代の初めの頃です。

これらは秘仏で毎年、二月二十二日、二十三日、太子の命日の法要である「春会式」に御開帳されます。

木造如意輪観音坐像［国指定重要文化財］

木造釈迦如来坐像［国指定重要文化財］

木造薬師如来坐像［国指定重要文化財］

木造十二神将立像巳神［国指定重要文化財］

木造十二神将立像申神［国指定重要文化財］

木造日光菩薩立像［国指定重要文化財］

木造月光菩薩立像［国指定重要文化財］

■木造日光菩薩立像［国指定重要文化財］
■木造月光菩薩立像［国指定重要文化財］

両像は、天文十年（1541）の焼失後、本尊の薬師如来像とともに鶴荘北方の楽々山円勝寺から斑鳩寺に移されました。

寄木造りで、目鼻立ちの優れた端正な相貌、腰をわずかに左右にひねるやや細めで軽快な肉体表現など、写実的で美しい姿態にまとめあげられています。

鎌倉時代後期の典型的な作例です。

■木造十二神将立像［国指定重要文化財］

日光・月光両菩薩像とともに、本尊薬師如来像の眷属として配置された十二神将像のうち、現在は8軀が残っています。

■庫裏（保性院）

［県指定文化財］慶安二年（1649）

斑鳩寺の庫裏とその表門は、元斑鳩寺塔頭の浄土坊、古くは保性院で文献などから慶安二年（1649）建立と推定されます。唐破風作りの玄関を持つ、入り母屋造り本瓦葺きの建物で、表門とともに原型をよくとどめ、建築様式の歴史をたどる上で貴重です。

■さざんか

［町指定文化財］

庫裏の庭前と玄関脇にあるこぶだらけの二本のさざんかの古木は、樹齢三五〇年以上と推定され、昭和五十六年に町指定天然記念物に指定されました。

仁王門
［県指定文化財］寛文十三年（1673）

聖霊権現社
文政十年（1827）

鐘楼
［県指定文化財］元禄六年（1693）

宝物収蔵庫 聖宝殿

聖徳太子2才像

山王社
明暦二年（1656）

天神社
［町指定文化財］天保六年（1835）

金剛力士立像（吽形像）

金剛力士立像（阿形像）

宮本武蔵生誕伝説

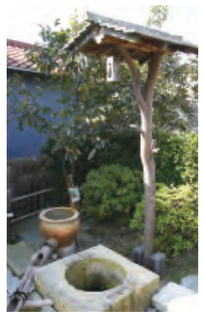
石海神社

■石海神社

祭神は舎人親王。創立年月日は不詳ですが、楠の大木が生茂り、古灯籠や拝殿の絵馬が歴史を物語っています。本堂は明治三十二年（１８９９）の再建です。

◉舎人親王

天武天皇の皇子。天武天皇の諸皇子の中で奈良時代初期に権勢を振るい、『日本書紀』の編集も総裁した。御母は新田部皇女。



■宮本武蔵生誕之地碑

宝暦十二年（1762）に完成した地誌『播磨鑑』に当時、宮本武蔵が太子町宮本村で生まれたと記されています。晩年の武蔵が著した『五輪書』に、自ら「生国播磨の武士…」としています。

残念なことに、宝暦年間（１７５１～１７６４）の大火災にて村の大半が罹災し、武蔵に関する史料・古文書・系図等の大部分を焼失しました。さらに、明治二十年（１８８７）におきた再度の大火災により、総ての史料・古文書等が灰となりました。

現在、武蔵生家跡として言い伝えられた場所に古井戸だけが残っています。

※荒神さん境内の無残な傷跡を残した椋木が、この再度の大火災を物語っています。

●播磨鑑

「宮本武蔵揖東郡鵤ノ庄宮本村ノ産ナリ、若年ヨリ兵術ヲ好ミ諸国ヲ修行シ、天下二カクレナク則武蔵流ト云テ諸士二門人多シ、然レドモ諸侯二任エズ明石二至リ小笠原右近将監督侯二趣キ玉フトキ同伴シ、養子伊織二五千石ヲ賜ハリテ大老職二任官ス今二其子孫三千石ニテ家老職ト云…」

◉飯事（ままごと）

草花をこの石の上に置いてままごとあそびをした時に生じたくぼみです。

ローカルヒーロー伝説

黒岡神社

天平宝字八年（764）、突如として攻め込んできた新羅の軍船に驚いた朝廷は、鉄の的をも射通すという藤原貞国に「的（いくわ）」の姓を与え、征討大将軍に任じ新羅の大軍を討伐させました。

貞国は折柄の大風に乗じて出陣し、敵将の首を取りました。貞国はこの偉功により播磨西五郡を賜り、的姓を名乗って太田郷楯鼓原に住所を構え長くこの地に栄えたといわれています。後に貞国は黒岡明神として崇め祀られました。

また、黒岡神社には菅原道真も祀られています。道真が筑紫に向かう途中、広畑の高浜へ滞留、当社へ参詣したゆかりによるものです。

■黒岡神社古墳

黒岡神社境内にある古墳時代後期の代表的な古墳。径約15ｍの円墳で、墳丘・石室ともに保存状態は良好です。石片袖横穴式石室内に石棺が残されているのも貴重です。

ミステリアスな石

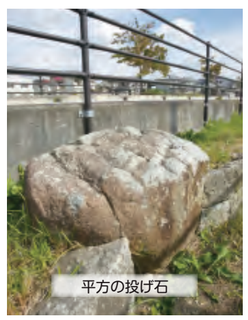
鵤荘牓示石

［県指定文化財］

太子町内の五ヶ所・姫路市大谷に二カ所の地点には「太子のはじき石」・「太子の投げ石」といわれる大きな「石」があります。聖徳太子が鵤荘に下向してこの荘園の境界を示すために置いた「牓示石」ともいわれ、このうち四ヶ所（太子町内の鵤北山根、平方、東南、東出）のものは兵庫県の史跡に指定されています。

鵤北山根の投げ石

東南の投げ石



平方の投げ石

松ヶ下の投げ石

東出の投げ石

稗田神社

稗田神社は古事記を編纂した稗田阿礼を祭神とする説と、聖徳太子妃である膳大郎女を祭神とする二つの説があります。いずれにしても、中世は法隆寺・斑鳩寺と稗田神社は密接な関係があり、鵤荘成立後、総鎮守社としての役割を果たすように、法隆寺・斑鳩寺の管轄に置かれていました。

●稗田 阿礼（ひえだ のあれ）

生没年不詳（八世紀後半から初頭）。阿礼が聞き憶えたした天皇家や諸豪族の物語を太安万侶が編集したのが『古事記』。

立岡山《伝説》

●立岡山・御立阜

立岡山は、太子町の中心部に位置する単山で、山頂からは付近の平野の四方を見渡すことができます。『播磨国風土記』に記される「御立の阜」に比定され、品太天皇（応神天皇）がこの山に登り、四方の地を眺め、国見をしたことから名づけられたとあります。

●立岡山・石蜘蛛城

弘安二年（１２７９）、従五位下島津左衛門大夫忠行がこの地の地頭職に補され、風光明眉・眺望絶景のこの山上に「石蜘蛛城」を築きました。

以後、天文三年（１５３４）、島津左近将監忠長までの十四代、ここに居城したと、当時の文献に記載されています。

●阿宗神社鎮座地・立岡天満宮

立岡山には、阿宗神社の前身、北の宮（一の宮）岡ノ峯八幡が祀られていましたが、文治五年（１１９０）この社を内山城主塩津左衛門尉義経が、自分の領地広山村に遷し、現在の阿宗神社の始まりになりました。

岡ノ峯八幡跡地には、現在、天満宮（祭神は菅原道真）が祀られています。狛犬に特徴があり、吽形の狛犬には頭部に凸ツノがあり、阿形の狛犬には、股間にオスの表現があります。

原大歳神社

原村は、昔、福井大池をめぐって他の村々との水争いに苦労していました。

ある年も手に鍬や棒を持ち、大喧嘩に行こうとしていると、真白の髭の老人が現れ、「やめとけー」と…大歳神社の氏神さんが止めたのでは…と言い伝えられています。

また、入り口にある観音さんは、川のなかから発見され祀られた、と伝えられています。

●原の火まつり

勇壮な火まつりで知られる大歳神社の原の火まつりは、原に伝わる伝統行事で、害虫を駆除する野火、祖先を迎える迎え火、雨乞いの祈り、五穀豊穣を祈る太鼓の放り投げなどの意味があり、古来より地域の生活に密着した火まつりです。

毎年八月十五日に開催されます。

徳道上人堂・産湯の井戸

太子町矢田部の西端に西国三十三ケ所霊場開山徳道上人のお堂があります。「峯相記」にも播磨国揖保郡矢田部村の人であると記されています。この地に生まれた上人が使った産湯の井戸が今も清光寺境内にあります。

●徳道上人

大和国の長谷寺を建立し、また城崎温泉寺など各地の寺院建立に関係し、人々に篤い信仰心を与え、仏教を広めた奈良時代の僧です。

浄因寺妙好人宇右衛門像

江戸時代、真宗門徒の中でも特に篤信の者が妙好人と呼ばれていました。宇右衛門さんはそのひとりです。元来粗暴な人でしたが、阿弥陀仏の本願に救われてから温和な人となり、周囲の人々を自然と善導していきました。宇右衛門さんゆかりの寺である浄因寺には遺徳を偲んで銅像が建立されています。

檀特山《伝説》

●弥生時代、頂上付近に見張り台、のろし台となる集落がありました。

●巨岩

応神天皇が四方を望覧され、その杖や沓の跡が残るといわれています。

●行道岡・黒駒蹄跡

太子行道の岡ともいいます。

山頂に十畳ほどの岩があり、その表面にある無数のくぼみは、聖徳太子の駒の蹄跡と伝えられています。その傍には、昔、駒つなぎの松がありました。この木が妙なる異香を放っていたので、異香留我（いかるが）の地名がついたという話もあります。

●檀特山の合戦

山名軍と赤松軍との戦いがありました。

●狐塚

千年坊という古狐が村人に害を加えていましたが、徳道上人の徳力により感動岩の下敷きになり死んでしまいました。それを村人が葬った塚。

●籠り塚

徳道上人が若年の頃、専心修業した跡です。内部は、八畳ほどあります。

●感動岩伝説

徳道上人の偉業に感じて自然に動いたという奇瑞をたたえて名付けられました。

糸の井

朝日山西山麓にある糸の井。朝日山におられた顕実上人の硯水と伝えられ、清水がこんこんと湧き出ていました。

いろいろの木の葉流るる糸の井は
ゆきき人のしるしとぞきく
顕実上人

桜井の清水

赤松義村が定めた、播磨国内の清水（湧き水）播磨十水のひとつ。

旧山陽道沿いの竹藪にあります。

黒岡にゆききの人も心あらば
恭ともなれさくら井のみつ
赤松広秀「播磨鑑」

太子山公園

今はＤ51が保存され、人々の憩いの場所となっていますが、かつてここには播電経営の太子山遊園地がありました。
当時としては西播地方随一のレジャーランドでした。

●播電

明治四十二年（１９０９）に龍野電気鉄道株式会社として網干港～觜崎間が開通、後に播電鉄道株式会社となり、昭和九年までの三十五年間、親しまれてきました。

聖徳太子立像

太子山の山頂に位置し、滋賀大学小谷教授が原型製作されました。立像を囲む公園からの眺めは360度のパノラマで太子町を見渡すことができます。

山陽道鵤宿

斑鳩寺の門前に成立した鵤村は、江戸時代には山陽道の宿場町として栄えました。しかし、本陣はありましたが、人馬の継立てはできませんでした。
今は、本陣は残されていません。

明治天皇山田御小休所

明治十八年七月二十六日から明治天皇六大巡幸の最後となる山陽道巡幸が開始され、八月八日、岡山県最東部の三石の光明寺を出立した天皇は、船坂峠を越えて、梨ケ原、東有年、鶴亀を経て、正條で昼食をとり山田峠に向かわれました。その峠の手前、山田の集落、当家で小休止されました。

楯岩城

楯岩城は、巨岩が文字どおり楯のように立ち並んでいるところから、名がつけられたといわれています。
地誌『播磨鑑』によれば、建武年間（1334～1338）に赤松則弘が築城し、室町時代の嘉吉元年（1441）、赤松満祐が室町幕府六代将軍足利義教を暗殺し、領国播磨で幕府方討伐軍に敗れ討たれた「嘉吉の乱」で落城したとあります。やがて赤松伊豆守貞村が居城し、その後五代続きましたが、天正の始めに羽柴秀吉によって攻められ落城しました。
姫路藩士小屋左次右衛門が城跡に登って描いた見取図によると、現在テレビ塔の場所が本丸で、南と西北にのびる屋根上に二の丸、三の丸があるかなり大規模な山城であったと記されています。

歴史資料館

伝説　大津茂川とお姫様

むかし、楯岩城には十才になる美しいお姫様がいました。ある、秋の夕暮れ時、三百もの敵兵士が攻め込み、味方は無勢で敗北したとの知らせが届きました。驚いた殿様は、大急ぎでお姫様に逃げるように命じ、お姫様が山をおり小舟に乗って大津茂川を下りて、ちょうど浄因寺のあたりまできたときに山を見ると、城は焼け落ちみな討ち死にしてしまっていたのでした。お姫様は、あまりの悲しさに涙がとめどなく流れ、優しい里人達との楽しい盆踊りや、秋祭を思い出していました。
「父や母、家来たちのあとを追って死のう。そして里人達のために大津茂川の主となって、川の流れが絶えないように守ろう。」と決心をし、大津茂川に身を投げたそうです。それから、大津茂川に水の枯れることはなくなったそうです。

「風土記の里太田民話の伝承　柳沢忠著」

松田山古墳

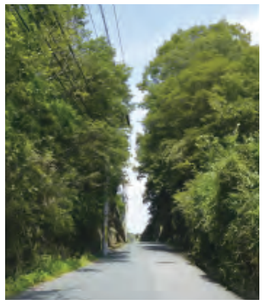
通称松田山の山頂にある古墳。銅鏡・銅鏃・筒形銅器（全国的にも数少ない貴重なもの）・鉄剣・鉄鏃・鉄斧・勾玉と管玉の首飾りなどが副葬されていました。古墳時代前期のもので、佐用岡を中心とする小さな平野を治めていた首長の墓ではないかと考えられています。

文覚上人腰掛石

福井荘のうち七ケ村の水不足対策として、文覚上人は堤防を築き福井大池を修復しました。この時、上人は池のかたわらのこの石に腰掛けて工事監督をしたと伝えられています。

山陽道・山田峠付近

姫路市と太子町の境に「山田峠」があります。その山田周辺の互陵の屋根・斜面などには、山田遺跡・小丸山遺跡・桃畑遺跡・中山遺跡・雁谷山遺跡等、数多くの弥生遺跡が存在します。



鵤藩主池田重利・重政墓所

江戸時代前期、鵤に陣屋を置く鵤藩がありました。元和三年（１６１７）池田重利が一万石の大名となって斑鳩寺の北西あたりに陣屋を構えたもので、その後寛永四年（１６２７）に新宮へ移りました。斑鳩寺には、重利、重政藩主二代の墓があります。

福井大池

福井大池は、姫路市域に属する福井荘のうち宮田・山戸・熊見・西土井・長松・天満・丁の七ケ村の水田を養ってきました。福井荘の田を養いながら、太田荘にあるため、池をめぐる争論が絶えず、数々の歴史が残されています。

大津茂川川床遺跡

縄文時代後期から弥生時代の土器片、石鏃が数多く発見されました。その中でも、シカと建物を描いた弥生中期土器は注目を集めました。

民俗資料館（旧長野家住宅・県登録文化財）

お地蔵さま

●太田のお地蔵さま

旧国道（昔の山陽道）沿い北側に、土地の人々から「太田の地蔵さん」の愛称で信仰されている地蔵菩薩があります。奈良時代の高僧行基が建てたと伝えられています。

●阿曽のお地蔵さん

旧国道沿いに長寿を祈願して安坐されている大きなお地蔵さん。弘化二年（１８４５）に建立と伝えられています。

●東保福専寺境内のお地蔵さん

［県指定重要文化財］

東保村の大庄屋が、寺の東の小川に埋まっている石地蔵の夢を見て、その夢の通りにお地蔵さんを発見、お堂を建ててお祀りしました。

●北向きのお地蔵さん

鵤西本町、太子山北麓に安坐されているお地蔵さん。田町のお地蔵さんとして尊ばれています。

■太子会式

春会式は毎年二月二十二日・二十三日の聖徳太子の命日に行われる縁日法要です。夏会式は先祖供養の施餓鬼法要で、毎年八月二十一日・二十二日に行われます。露店やイベントがある両会式は、多くの参詣客でにぎわいます。

■太子あすかふるさとまつり

太子あすかふるさとまつりは毎年十一月三日の文化の日にあすかホールを中心に開催されているイベントです。
時代パレードや大ホール、中庭ステージ、駐車場などで様々な催しが行われています。フリーマーケットや出店などもあり、毎年多くの人で大盛況です。

■御頭会

毎年二月に行われる法会で、勝軍会ともいいます。聖徳太子が仏敵物部守屋討伐のおりに四天王に勝利を祈願した故事にのっとった郷土の伝統行事で、頭人に選ばれた四人男児が太子の子供になり立派に成人することを祈願するものです。

■お幡入れ・法伝哉

お幡入れ・法伝哉は、旧鵤荘の太子町平方・東保・東南とたつの市福田に伝わる伝統芸能で、聖徳太子が仏敵物部守屋を討伐し凱旋する様子を今に伝えるものといわれています。
平方法伝哉保存会が太子町無形民俗文化財に指定されています。

聖徳太子と宮本武蔵の地

ぶらぶら史跡めぐり

揖保郡太子町散策

斑鳩寺までのアクセス

◎JR山陽本線網干駅下車<北口>タクシー有り
　　<南口>神姫バス山崎行き乗車、約10分「鵤」バス停下車、徒歩300m
◎姫路駅前より神姫バス龍野行き乗車、約30分「鵤」バス停下車、徒歩300m

太子町は、兵庫県南西部（西播磨地域）に位置する町で、揖保郡旧3町（揖保川町・新宮町・御津町）が平成17年（2005）10月1日に龍野市と合併して「たつの市」になったため、揖保郡は太子町単独となりました。東および南は姫路市に、西および北はたつの市にそれぞれ隣接します。面積は、約22.7km²。
総人口は33,737人、人口増減率は県下41市町中4位、49行政区域中6位（平成22年国勢調査より前回調査から）。また、瀬戸内海式気候地域に属し、年間を通じて比較的温暖な気候に恵まれています。町内を国道2号線、国道179号線、JR山陽本線、JR山陽新幹線が走っており交通の要衝となっています。
<町の木…さざんか　町の花…ひまわり>